

国崎クリーンセンター 焼却炉 20年間延命化に238億円 規模は適正か 環境への影響は大丈夫か？！



猪名川上流広域ごみ処理施設組合(川西市、猪名川町、豊能町、能勢町)の定例議会が、2月2日、国崎クリーンセンター(国崎CC)で開催されました。国崎CCは現在、施設の老朽化に伴う「灰溶融炉の廃止」と「焼却炉延命化計画(約238億円)」が進められています。歴史的経過を知らない職員、住民が中心世代に移っています。そこで私(黒田)は当時大きな課題となつた周辺環境と自然環境への影響について、改めて総括し今後の課題を確認するため、一般質問で討論し、議会終了後の議員総会でも参考資料(2枚目に掲載)を作成して意見を述べました。(会議録は開示されます)

国崎CCは、1997(平成9)年に豊能郡美化センターが高濃度ダイオキシンを排出、休炉になったことをきっかけに計画されました。環境への影響などから1市3町周辺住民の反対運動や住民裁判も起こりましたが、2009年に本格稼働されました。

引き続き環境保全を

それから13年を経て現在、2028(令和10)年をめどに灰溶融炉を廃止し、2048(令和30)年度までの焼却炉延命化計画(約238億円)が進められようとしています。

環境モニタリング注視

13年間の環境への影響はどうだったでしょうか。排出源モニタリング(大気質、水質、処分対象物、土壌など)結果では、環境保全委員会と連携して進めているが問題はないということでしたが、光化学オキシダント濃度の

高い時期があることや逆転層による大気汚染の拡大については注視すべきと求めました。

同規模の施設必要か

環境基準に対する周辺住民との協定書や国崎CCの説明パンフレットの定書や国崎CCの説明パンフレットの定書は、灰溶融炉廃止時に行うとの変更は、灰溶融炉廃止時に行うとのことでした。

人口、ごみとも減少

しかし、2009年と2020年の事業年報比較では、11年間に1市3町の人口と可燃ごみ量は93.4%に減っています。人口減少とごみ減量の中で、計画規模が妥当なのか、各自治体の負担は大丈夫なのか、いま契約を締結すべきなのかを繰り返し問いました。

「人口は減らないかも」

人口やごみ量の予測を見定めるため、新年度の契約締結は再考してはどうかと問いましたが、「人口は減らないかもわからない」との答弁が返ってきました。

協定書や説明パンフ

環境基準に対する周辺住民との協定書や国崎CCの説明パンフレットの定書は、灰溶融炉廃止時に行うとのことでした。

いうまでもないことですが、事故は絶対起こしてはなりません、大丈夫ではなく、住民・議会・職員・事業者がそれぞれ緊張関係を大切にしてお互いをしつかりチェックしていくことが必要です。

組合は、1市3町以外のごみ搬入を考えているのでしょうか。長寿延命化計画(補修工事や点検含む)の必要性は否定しませんが、この規模のまま20年突き進むという考え方には大いに疑問が残りました。黒田の資料は今号2枚目に掲載しています。

傍聴者からお手紙

当初、現在の国崎CCは、土地の購入、造成、建設など総事業費210億2155万9000円でした。

傍聴者からお手紙。先日、組合議会の傍聴に行きました。席から「拍手したいー!」と思つたくらい、黒田さんの発言にうなづいておりました。まだ10年少々なのに、歴史が上書きされています。保全委員会の事務局の不十分かつごまかしか!と思えるヒドイ説明に何とかしなくてはと少々アセリも感じていました。

黒田さんのような議員さんがおられることを、とてもうれしく、頼もしく思っています。少し遅くなりましたが、お礼と応援の気持ちを込めて!(ほぼ全文通り)

積雪で4日も車をリタイア



ねりき恵子 兵庫県議会議員と一緒に夕方のお帰り宣伝

大軍拡 NO 大増税 NO 政治を変えましょう!



毎月恒例の「しんぶん赤旗」宣伝。見本紙をお配りしながら、その時々のお話「戦争アカン!」署名にも取り組みます。

情報コーナーの充実を

川西市・情報コーナーでは、今までの会議録などの資料が揃わなかったため、今回、国崎CCとして当初からの資料や会議録などの有無を確認すべきと提起しました。

灰溶融炉の廃止により細な分別ができなくなり、リサイクル率が下がることや有価物の売り払い収入(R2年度決算約8600万円)がなくなり組合として減収となりますが、新たな手法なども研究し、情報開示を徹底、拡充させてほしいと伝えました。